



ちいかん
サステナビリティ
レポート2020



トップメッセージ

● 持続可能性の危機

株式会社 地域環境計画は、40 年前の 1981 年に「自然や生きものに係わる仕事がしたい、自然や生きものがずっと身近な存在であってほしい」という思いから設立した会社です。その背景には、1962 年の「沈黙の春」（レイチェル・カーソン）や 1972 年の「成長の限界」（ローマクラブ）から学ぶ中で感じた「このままでは世界は早晚終焉を迎えるのではないか」という漠然とした不安がありました。まさしく「持続可能性」への疑問があったのだと思います。そしてそれは今、より現実的な危機になっています。

● 共存から共生へ

設立以来、自然環境調査や環境アセスメント、また環境行政や企業の環境 CSR に係るお仕事を全国でさせていただく中で、人間が自然や生きものと共存（coexistent）することについては一定の役割を果たして来たのではないかと考えます。しかし、持続可能であるためには、もう一歩進んだ「お互いに等しく依存しあい好循環がある”共生（symbioses）”」の関係づくりが重要であって、その側面においても出来ることがあるはずだ、という思いがあります。このレポートでご紹介するCSVなど当社の取り組みは、「人と自然や生きものとの”共生”」に対して企業としてもっと主体的に貢献したい、という思いからトライしているものです。

● サステナビリティレポートに込める思い

「サステナブル経営とは何か？」それは、①持続可能な社会の実現に貢献する企業であること、そして、②そのような会社であることによって企業そのものも持続可能であること、だと考えます。ちいかんサステナビリティレポートの初号では、現在の当社の取り組みを棚卸してみました。次に何をすべきか、さらに自然環境を軸足としつつ守備範囲を広げてもっとやれることはないか、を考えるきっかけにしたいと思います。そして、サステナブル経営に向けてまた一歩前進し、ちいかんの更なる成長、社会にもっと役立てる会社に繋がたいと願います。



高塚 敏

代表取締役 高塚 敏

編集方針

本レポートは、持続可能な社会の実現に向けて当社がこれまで構築してきた事業体系や事業内容、今後に向けた展開の方向性を記載しています。本レポートをきっかけに、現在当社と関わりを持ってくださっている皆様、これから関わりが生まれる皆様と、自然環境を基盤とする持続可能な社会づくりの輪が広がっていくことをのぞみます。

商 号：株式会社 地域環境計画 [<https://www.chiikan.co.jp/>]

設 立：1981 年 6 月 8 日

資本金：1,000 万円

社員数：113 名

支社・営業所：本社・東京支社・プロダクト営業部・企画開発部・野生生物管理部（東京）/
北海道支社（札幌）/ 東北支社・野生生物管理部（仙台）/ 名古屋支社（名古屋）/
大阪支社（高槻）/ 九州支社（福岡）

分 室：福山 事務所：福島 / 埼玉 / 神奈川 / 横浜 / 沖縄

事業内容：自然環境調査、GIS による情報整備・分析、鳥獣被害対策・物販、環境教育・観察会の企画運営、
企業の生物多様性の取り組み支援、自治体の計画策定支援など

（2020 年 5 月現在）



サステナブル経営に向けた事業体系

当社は、国、自治体、企業の自然共生、生物多様性に関連する事業や活動を多面的に支援しています。事業の推進にあたっては、環境マネジメントシステムのしくみを活用することで環境負荷の低減をはかりながら、地球環境・生態系・生物多様性の保全と生きものと共生する地域づくり・人づくりに貢献しています。

企業理念の実現へ

持続可能な社会の形成を目指して「生きものと共生する地域づくり・人づくり」に貢献します。

ちいかん
CSV

社会及び当社の持続的な発展を支えるため、本業で得た技術や知識・経験を活かして、社会に貢献する新たな事業の提案や商品開発を行う取組みを推進しています。

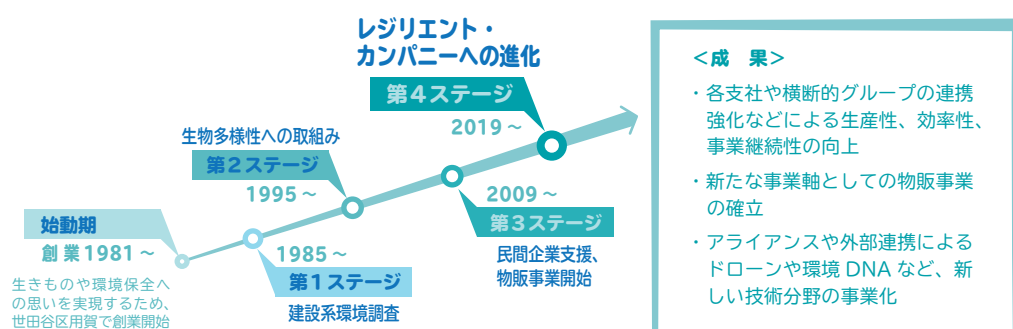
挑戦

【ビジョン】計画期間：2020年5月～2023年4月

時代の変化を乗り越え成長する会社

中期経営計画

現在 100 名を超える社員と、企業理念や経営方針、目標や取組み内容を共有するとともに、長期的な視点で会社づくりを進めています。



当社では2011年から中期経営計画を作成しており、ここで掲げた経営ビジョンを達成するための事業を推進してきました。2019年からは第4ステージと位置付け「世の中の変化に応じて持続的に経営理念を追求できるレジリエント・カンパニー」をめざして取組みを進め、成果をあげています。

中期経営計画に基づく事業推進

品質管理

当社の活動は、企業理念の実現をめざした価値の高い情報・コンサルティング・プロダクトを提供し続けることであり、これら取組みの基本となる各種方針や計画等を定め、徹底します。

●社会への責任を果たす

法令遵守はもとより、組織と社員の持続的な成長をめざす働き方改革や職場づくりに取組みます。自然災害等の緊急時には、事業継続計画（BCP）に基づき、事業活動の早期復旧をはかります。

●サービスの質の維持と向上：QMS（ISO9001）

お客様の要求事項、法規制等の要求事項に幅広く適合した企業活動を行います。マネジメントレビューを通じて品質マネジメントを継続的に改善します。

●情報セキュリティ

情報セキュリティ基本方針を定め、これを全社員が遵守し業務を遂行します。

詳しくはこちら

<https://www.chiikan.co.jp/company/idea/>

環境 マネジメント システム

環境マネジメントシステム「KES」のしくみを活用し、生態系・生物多様性の保全と気候変動の緩和に配慮した事業を実施しています。

●「環境宣言」

地球環境・生態系・生物多様性の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全社一体となって環境影響・環境負荷の低減に努力します。また、当社の特性を活かし、特に生態系・生物多様性保全の面で社会貢献に努めます。



詳しくはこちら

<https://www.chiikan.co.jp/company/declare/>

基盤

私たちの現在地

ここでは、当社の活動が SDGs にどのように貢献しているかという視点で棚卸し、「私たちの現在地」として整理しました。加えて、社員が日々感じている社会課題への意識と、今後積極的に取組みたいことについてアンケートを行い、その結果を合わせて表現しました。

これらを基に、次年度は長期的なゴール設定・重点分野や行動計画・その評価手法の作成に着手し、企業理念の実現に向けて企業活動をさらに進化させていきます。

私たちの現在地：現段階での整理基準

- ◎：貢献する取組みを展開している
- ：貢献に向けた取組みを開始している
- ：貢献したいという思いが強い
- ×：今日までできていないが、取組みの必要性を認識した

<ちいかん CSV とは>

当社が本業で得た技術や知識・経験を活かして、社会に貢献する新たな事業の提案や商品開発を行う取組み

企業理念

持続可能な社会の形成を目指して

「生きものと共生する地域づくり・人づくり」に貢献します。

ゴール	私たちの現在地	私たちの思い（今後取組みたいこと）
● ターゲット	◎●○× 【主な取組み内容】  社員の課題意識が大きいこと	～ 社員アンケートより ～
1  貧困をなくそう	ゴール1 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる ● 貧困層・脆弱な状況にある人々のレジリエンスを構築する ○	・ 海外事業の始動
2  飢餓をゼロに	ゴール2 だれもが安全で栄養のある食事ができるよう、持続可能な農業を促進する ● 持続可能な食料生産システムを確保し、レジリエントな農業を実践する ●	【ちいかん CSV】 ・ 日本のおいしいお米を未来へ「ちいかん米」の取組み ・ 有機農業推進のための「BeeHotel」商品化 ・ 生物多様性に配慮した養蜂事業支援
4  質の高い教育をみんなに	ゴール4 だれもが受けられる公正で質の高い教育を提供する ● 持続可能な開発に必要な知識・技能を得るための教育を推進する ◎	【事業】 ・ 自然観察会、環境イベント、セミナーの企画運営 ・ 企業の従業員向け生物多様性教育支援 ・ パンフレット、WEB コンテンツ等の作成 【ちいかん CSV】 ・ 生物多様性の普及啓発支援 【広報活動】 ・ ちいかんニュースレターによる自然環境情報の定期発信 ・ 次世代へつなぐ環境教育 ・ 自然体験や環境教育プログラムの新規開発 ・ 将来世代（次世代）が主体的に動ける仕組みづくり ・ 自然とともに生きる知識の保護・復旧・普及
5  ジェンダー平等を達成しよう	ゴール5 すべての女性・女児が公平な機会を得られるようにし、ジェンダー平等を達成する ● 無報酬の育児・介護・家事労働を認識・評価し分担する ◎	【働き方】 ・ 全社統一 NO 残業デーの実施 ・ テレワーク勤務制度の導入 ・ 育児・介護の休業および短時間勤務の導入 ・ 働き方改革・ジェンダー平等の取組み ・ 働き方の効率化のための業務支援 ・ 働きやすい社内環境づくり
6  安全な水とトイレを世界中に	ゴール6 だれもが安全な水を持続可能に利用できるようにする ● 水不足に悩む人の数を減らすため、水の有効利用を推進する ×	【事業】 ・ 森林、湿地、河川等の生態系の保護・回復のための自然環境調査、保全検討  生物多様性の保全

ゴール ● ターゲット	私たちの現在地 ◎●○× 【主な取組み内容】	私たちの思い （今後取組みたいこと） ～ 社員アンケートより ～
7 エネルギーもみんなに 使ってもらおう  - 再生可能エネルギーの割合を増やす - エネルギー効率を改善する	ゴール7 だれもが安心・安全で持続可能なエネルギーを使えるようにする 【事業】 - 再生可能エネルギー施設整備に伴う自然環境調査、保全検討 【環境マネジメントシステム（EMS）】 - 省エネルギーの取組み - カーボンオフセットによる再生可能エネルギーへの投資	- 小水力発電事業の推進 - 循環型社会形成への貢献
8 働きがいも経済成長も  - 雇用と働きがいのある仕事、同一労働同一賃金を達成する - 持続可能な観光業を促進する	ゴール8 だれもが働きがいのある仕事をしながら、持続可能な経済成長を促進する 【働き方】 - 障がい者雇用 - テレワーク勤務制度の導入 - 定期的な給与制度改定 【事業】 - 地域資源発掘とそれを活かしたエコツアーの企画運営 - 自然の利用ルールの検討 【ちいかん CSV】 - 牡鹿半島の自然再生・地域づくり、地域産業の創出支援	- 若手社員の育成と離職防止対策 - 働きやすくやりがいのある職場づくり - 自然環境コンサルタントに携わる人たちが安心して人生を過ごせる強靱な企業の構築 - 地方創生に寄与するエコツーリズムの企画運営 - ウェルネス等他分野と連携した地方創生事業 - 地域の自然資源（風習、農林漁業を含む）を活用したビジネス支援 - 観光資源の発掘とプロモーション - 地域産業の創出（地域性種苗の育成や昆虫食の普及など） - 地域の自然環境と文化を活かした地域経済活動
11 住み続けられるまちづくりを  - 大気や廃棄物による都市の環境への悪影響を減らす - 緑地や公共スペースへのアクセスを提供する - 都市部、郊外、農山村部間の良好なつながりを支援する - 総合的な災害リスク管理を策定し、実施する	ゴール11 安全でレジリエントのある持続可能な都市空間を実現する × 【事業】 - 地域の生物多様性に配慮したまちづくり支援 【事業】 - 都市農村交流事業（交流人口増加のしかけづくり、地域リーダー育成、六次産業化セミナー等の実施） 【事業】 - レジリエンス（有形・無形の地域資源）の可視化支援	- 都会でも自然を身近に感じることのできる環境整備 - 生きものや自然をツールとした地域コミュニティの構築や強化 - 自然環境面から Society5.0 への貢献 - 地方創生に寄与する自然環境を活用した仕組みづくり - 土地利用の最適化（自然共生、防災・減災、生産と流通の効率化等） - 活力あるコミュニティとしての都市の再生 - 自然を活用したまちづくり（生態系を活用した防災・減災、グリーンインフラ） - 生態系サービスを活用したまちづくり - 地域のレジリエンス向上
12 つくる責任 つかう責任  - 廃棄物の発生を減らす - 企業が持続可能な取組みを導入し、情報を発信する - 持続可能な開発、自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つ	ゴール12 だれもが持続可能な生産・消費の形を理解し実現する 【環境マネジメントシステム（EMS）】 - 省資源の取組み 【情報開示】 - サステナビリティレポート（本レポート）の発行 【事業】 - 企業の生物多様性取組み支援 【ちいかん CSV】 「生物多様性カフェ」の企画・運営 「博多湾生きものネットワーク（HBN）」活動支援 - VR 装置を用いた自然体験サービスの企画開発	- あらゆる世代が楽しめる「地域の自然」をテーマにしたレクリエーションの開発 - 都市域生活者の価値観に合わせた環境教育・自然環境に親しむコンテンツの開発 - 地産地消の食卓づくり

ゴール		私たちの現在地	私たちの思い（今後取組みたいこと）
● ターゲット		◎●○× 【主な取組み内容】	～ 社員アンケートより ～

13

気候変動に具体的な対策を

ゴール 13 気候変動とその影響を軽減するための対策に、緊急に取り組む

自然災害リスクへの対応

● 気候関連災害や自然災害へのレジリエンスと適応能力を強化する	● 【事業】 ・自然環境の現状把握・変化予測・対策検討に必要な情報整備事業 ・自然環境情報の共有・統合のしくみ整備	・気候変動影響を測る生物モニタリング活動 ・温暖化を最大限に食い止める自然の有効活用策
● 気候変動対策についての教育、啓発、能力や制度機能を改善する	×	

14

海の豊かさを守ろう

ゴール 14 海やその資源を保全し、持続可能な形で利用する

● 海洋汚染を防止・削減する	○ 【ちいかん CSV】 ・「博多湾におけるマイクロプラスチック環境教育講座」の実施	
● 海洋・沿岸の生態系を回復させる	● 【事業】 ・沿岸域保全のための陸域生態系の課題分析 ・干潟の自然環境調査	

15

陸の豊かさも守ろう

ゴール 15 陸域の生態系の保護、回復、生物多様性の損失を阻止するとともに、持続可能な森林経営等、持続可能な利用を推進する

生物多様性保全、森林保全、鳥獣被害対策

● 陸域生態系とそこから得られるサービスの保全・回復・持続可能な利用を確保する	◎ 【事業】 ・環境アセスメントに係る自然環境調査 ・自然公園等における GIS を用いた自然環境情報整備、解析 ・「生物多様性地域戦略」等の環境関連計画の策定支援 ・国立公園の管理運営計画の策定、推進支援	・淡水希少魚等の域内・域外保全を軸とした地域連携のしくみ構築 ・生物技術強化による包括的環境対策
● 森林の持続可能な経営の促進、森林の減少の阻止と劣化した森林を回復させる	● 【事業】 ・森林環境譲与税の有効活用策の提案 ・森林の現状調査、所有者意向調査、森林生態系の回復のための調査提案	・放棄人工林の整備による生物多様性の向上
● 山地生態系と生物多様性を保全する	◎ 【事業】 ・高山帯における自然環境調査 ・山地における鳥獣被害の現状調査及び保全対策検討 ・鳥獣被害対策用品の販売	
● 絶滅危惧種の保護と絶滅を防ぐための対策を講じる	◎ 【事業】 ・希少動植物の現状調査、保全対策検討 【ちいかん CSV】 ・IoT デバイスを活用した自然環境モニタリング手法の開発 ・ドローンを活用したイノシシ対策の技術開発	・最新技術（IoT を含む）による生物調査技術開発
● 外来種対策を導入し、生態系への影響を減らす	◎ 【事業】 ・外来生物調査、対策検討、対策の実施 ・外来生物の普及啓発、被害対策コンサルティング	・より効果的な外来種対策技術の開発

17

パートナーシップで目標を達成しよう

ゴール 17 世界の持続可能性を確保するための手段の強化と、グローバル・パートナーシップを活性化する

● 効果的なパートナーシップを推進する	◎ 【パートナーシップ】 ・国際 NGO との情報交換 ・支社拠点ごとに構築した研究機関・市民団体等との連携 ・調査研究・人材育成・普及啓発のための「NPO 法人野生生物調査協会」運営 ・生物多様性保全関連団体、業界団体と連携した活動 【ちいかん CSV】 ・「生物多様性・SDGs 民間企業ミーティング」の企画・運営	・国際社会における生物多様性保全施策への参画
---------------------	--	------------------------

ちいかん CSV 一事例の紹介

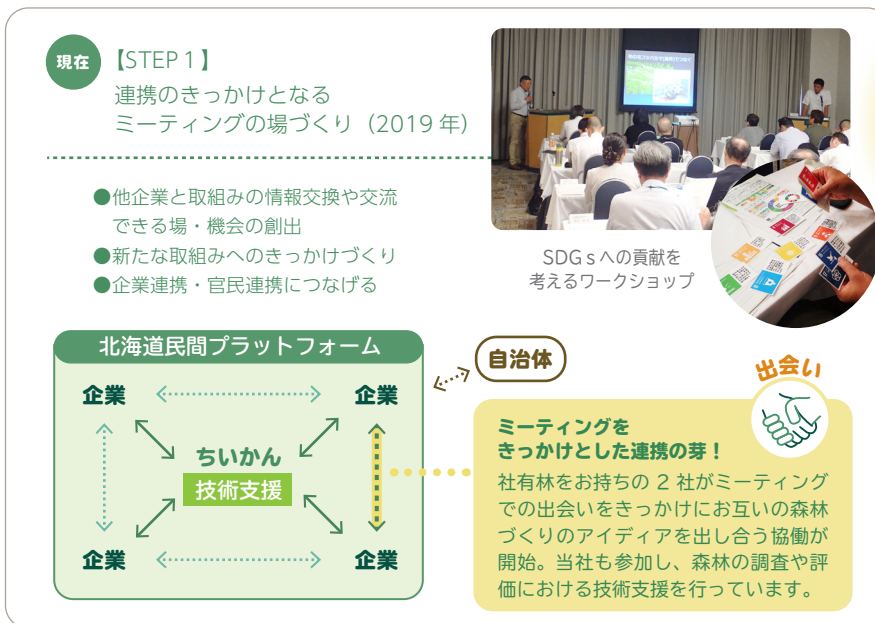
（東北支社） 牡鹿半島の自然再生と 地域づくり支援



宮城県石巻市の牡鹿半島は、東日本大震災で大きな被害を受け、過疎化の進行が懸念される地域です。当社は、（一社）おしかリンクと協力し、牡鹿半島に自生するウリハダカエデによる森林再生を進めながら、カエデの樹液であるメープルシロップにより、地域産業の創出をめざしています。これにより牡鹿半島の自然再生と持続可能な地域づくりを支援します。



（北海道支社） 「生物多様性・SDGs 民間企業ミーティング」の企画・運営

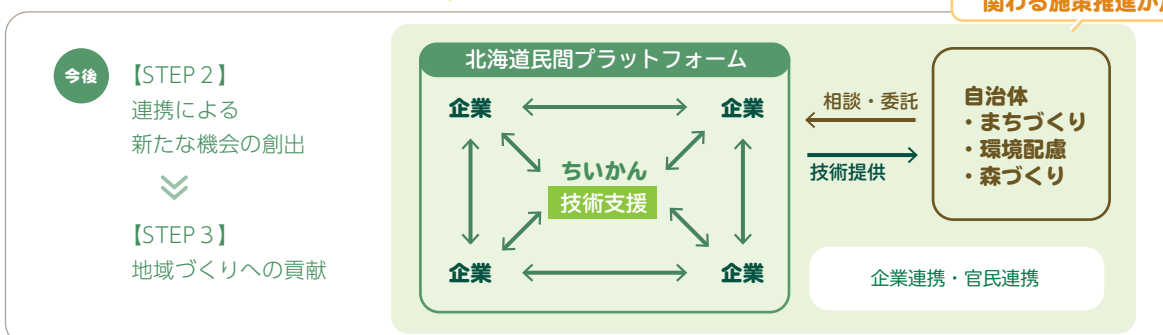


北海道で企業連携・官民連携をつくりだすことで、これまでにな
い新たな事業をうみだし、地域の
生物多様性に関わる取組みが加速
することをめざす活動を進めてい
ます。2019年度は、生物多様性
や SDGs をテーマにミーティ
ングを主催し、道内の生物多様性の
保全に携わる皆さまと、現状につ
いて情報共有を行うとともに、交
流のきっかけをつくり、連携に向
けて動き出しました。

札幌の夜景をバックに
ヤマコウモリの出巢も
観察しました



**地域全体の生物多様性に
関わる施策推進が加速！**

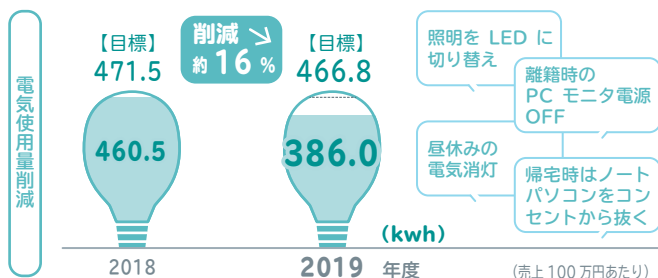
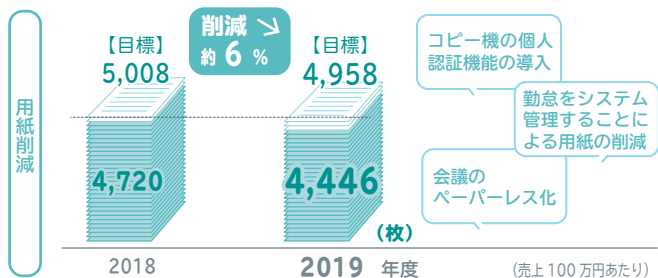


環境マネジメント 2019 年度実績

当社は「環境宣言」における基本理念に基づき、当社が行うすべての活動、サービス、製品の環境影響評価を行った上で、特に影響の大きいものについて環境改善目標を設定しています。以下に環境改善の取り組み状況を示します。

< 省エネルギー・省資源 >

省エネルギー・省資源の取り組みを着実に実施し、グリーン購入を念頭に置きながら、改善を図っています。



< 生態系・生物多様性保全 >

生態系・生物多様性へのインパクト低減 （事故・トラブルゼロ）

目標 ゼロ件
実績 ゼロ件

（例）ディスタープ（妨げる）

生きものを驚かささない色や材質の作業着や機材を使用するように努める

現地調査時には、毎回各調査員が生態系・生物多様性へのインパクトについてチェックし、その低減方法について共有するとともに、万が一、緊急事態が発生した場合、被害が最小限となるようマニュアルに沿って対応しています。車両使用や公的許可の必要な調査道具の使用時などに、環境側面の事故やクレーム、トラブルが起こらないよう細心の注意をはらい現地調査を行っています。

< 社会貢献 >

生態系・生物多様性保全と、その普及・啓発を実施するなどの社会貢献を行っています。

社会貢献活動を行った社員数



< CSV >

目標 24 件
実績 23 件

各支社において CSV の取り組みを計画し、実施しています。ここでは、企業と地域社会の協働で価値創出するなど、その内容が今後につながる新しい取り組みや連携のきっかけとなる取り組みを選定しています。2019 年度は、23 件実施しました。

（2019 年度：社会貢献活動および CSV 活動の取り組み例）

- 北海道アウトドアフォーラム2019への技術提供 [北海道支社]
環境教育事業の事例発表及び獣害防除のレクチャー
- 都市域の生物多様性講義 [東京支社]
都市において生物多様性に配慮する意義やその方法・活用方法講義
- なごや環境大学・共育ゼミナール 川の生きもの調査 [名古屋支社]
名古屋都市部において魚や水草、水質等の調査を行い結果を提供
- 生物多様性カフェの開催 [大阪支社]
地元高槻の自然を広く知ってもらうための普及啓発活動
- 佐賀環境フォーラム「生きものと私たちの暮らし展」講義 [九州支社]
佐賀大学外生及び市民への生物多様性に関する講義

名古屋支社のカーボン・ニュートラル達成

全社でのカーボン・ニュートラルの達成に向け、2020 年度は名古屋支社において取り組みを開始しました。当社は環境マネジメントシステムを活用してエネルギー消費の低減に努めていますが、それでもなお排出される二酸化炭素があります。そこで、カーボンオフセット市場からクレジットを購入することで、カーボン・ニュートラルに取り組むこととしました。

2020 年度は名古屋支社における二酸化炭素排出量に応じたクレジット購入を通じて、再生可能エネルギーに投資することで、カーボン・ニュートラルを達成しました。



株式会社
地域環境
計画
生きものと共生する
地域づくり
ちいかん

・本社／東京支社／プロダクト営業部／企画開発部／野生生物管理部
・北海道支社
・東北支社／野生生物管理部
・名古屋支社
・大阪支社
・福山分室
・九州支社
<https://www.chiikan.co.jp/>

問合せ先

企画開発部 担当：上崎・阿部

E-mail: kikaku-office@chiikan.co.jp

〒154-0015 東京都世田谷区桜新町 2-22-3 NDSビル
TEL: 03-5450-3700 FAX: 03-5450-3701